

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372500856		
法人名	輪楽笑		
事業所名	グループホーム輪楽笑		
所在地	春日井市白山町5丁目5番地の2		
自己評価作成日	平成30年 8月 8日	評価結果市町村受理日	平成30年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2372500856-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年 9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 利用者の1日を大切に 自分で決める自分の人生。
 * 利用者より直接聞き取りその思いに近づけて自分らしさを実感できる外出支援。
 「自宅復帰も含めた自立支援」「自分で出来る事は自分でやる」出来るだけ自分のペースで生活し毎日を”元気で””楽しく””笑いながら”共に今を生きるホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの希望が実現できる支援に、職員が一丸となって取り組んでいる。職員の、利用者の意向を汲み取るうとの意識は高く、週2回の個別外出支援で実現する取り組みを継続している。
 利用者の尊厳を大切に、できることは自分で、職員は手を出しすぎないを徹底している。ホーム長や管理者は、そのためには職員の観察力が何よりも重要と考え、職員のレベルアップを図っている。その結果、事故なく病気は素早く察知し、笑顔で自由に暮らせる環境が作られている。
 地域に溶け込むことにも注力し、クリスマス会の案内を回覧板に加え近隣にポスティングを行った。その結果、多くの地域住民の参加があり、来訪のなかった子どもたちの家にも準備したプレゼントを届けた。地道な努力が決まり、子どもたちが自由に立ち寄ってくれる関係が築かれてきた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常生活の中で、朝夕の挨拶が出来ごく普通の生活が送れ、その中で地域との繋がりを大切に支援している。	ホーム理念を「ゆっくり楽しくみんなで過ごす」とし、掲示して浸透を図っている。職員は理念を理解し、利用者の思いをくみ取って願いを叶え、日々元気で楽しく暮らせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム内での行事を事前に回覧して地域にお知らせしている。ご近所の親子さんにゲーム等の参加の声掛けして大いに楽しむ。特に夏休みや冬休みには気楽に訪ねて来られる。	夏祭りやクリーン作戦等の地域行事を回覧板で情報収集し、積極的に参加している。クリスマス会や流しそめん等のホーム行事はチラシのポスティングや回覧板で地域に周知し、地域から多くの参加を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎日の散歩や外出支援による中で、地域の人々と利用者様が係わりが出来るよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的会議(2ヶ月に1度)に地域の役員、包括、老人会利用者家族代表の出席により皆様から出た意見を参考にしている。	利用者、家族代表、地域代表、地域包括支援センター職員が参加し、近隣にある同法人の事業所と合同で年6回開催している。近況報告や情報収集の他、防災、食中毒等、毎回テーマを決めて活発に討議している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点はその都度相談し事故発生時には、電話にて早急に報告する事で関係を深めて措置 入居利用者様に繋げた。	運営推進会議には毎回地域包括支援センター職員が参加し、ホームの現状を理解している。日頃から困ったことは相談し、担当者からは紹介や情報提供がある。市が主催する研修には積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所内に職員が目につく場所に掲示、「私たちの自慢はみんなの笑顔です!!」をスローガンとして見守り支援をしている。	玄関は施錠することなく、職員の見守りの中、利用者の自由な生活が確保されている。外出を希望する利用者には付いて行き、スピーチロックは話を聞く側に回る姿勢を持つことで回避している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事務所内の目に触れる場所に小冊子を設置して意識向上を高め、利用者との防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修報告書に基づいて定例会議の場等で職員全員で共有し、個々に於いて必要に応じて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約日に家族に契約書及び重要事項説明書の説明を実施。理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時には本人家族職員と共に個別支援の外出の中で、記憶の活性化を図りその様子や会話を記録し家族との連帯を図っている。	利用料の支払いを原則現金としており、毎月家族と面談できる機会を設けている。管理者を中心に意見の聞き取りを行い、毎月のホーム通信ではホームの報告と併せ、利用者の様子を記録した書面を添えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者並びに管理者は日々の意見に耳を傾けて必要に応じて、定例会議の場に於いて話し合い反映させている。	職員は定着しており、安定した職員雇用である。日頃から管理者に相談できる環境にあり、コミュニケーションは良好である。毎月の職員会議では皆で利用者を支えるとの意識の下、自由闊達に意見交換している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員と連帯し一人一人の会話の内容や様子で”やりがい”を持って働けるかに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力に応じた外部研修に参加させスキルアップに繋げている。研修の成果を日頃のケアに活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やブロック会議を通じて交流を深め、そこで得た情報を持ち帰り必要に応じて水平展開に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	共同生活の中でも自分らしい時間が取れるか、生活リズムを確保できるよう職員が連帯し支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体験入居の段階で現在の状況(不安、困惑、疲弊、要望)等を出来るだけ細かく記録し今後のケアに活かす。また家族の思いをくみ取り必要に応じて電話にて様子等を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の他の施設利用も含め早い段階で情報を提供し、想いを聞き不安にならないように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は時として家族のように泣いたり笑ったり怒ったりを繰り返すその中で、信頼関係を築き上げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子、変化等直接電話にて対応。また毎月の通信でお知らせしている。来所時には家族の思いを聞き取り必要に応じて支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その関係が継続出来る様に来訪、外出、文通、そして今まで生活していた所へ等ドライブするなど支援している。	会社の同僚や近隣住民がホームに訪ねて来る。家族と墓参りに出かけたり、馴染みの美容室に通ったり、年末には一時帰宅したりと、関係の継続が支援されている。化粧や俳句、作画等、趣味や習慣も継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	室内での折り紙、ちぎり絵、ゲームなどで常にグループで行動し支え合う良好なコミュニケーションを取れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に次に困る事の無い様に情報提供をしそれ以外に書面で電話等で説明をする。それでも情報不足が発生した場合は訪問する行動で支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自室や入浴時日々の生活の中で会話を多く持ち支援に不足があれば対応する。「食べたい」「行きたい」の個別支援も家族の協力の元で実現している。	日頃から、利用者の希望を聞き取るうとの職員の意識は高く、入浴支援時や自室内等で1対1になる機会を大切に、思いを引き出している。食べ物や外出に関する希望実現の事例は多い。	一見実現困難に思える利用者の意向でも、初めから諦めるのではなく、「いかに希望実現に繋げていくか」を検討する取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	夜間時に於いて今までの生活等の聞き取りを行い、また家族からの情報提供でこれからの生活に参考になるものを出来るだけ取り入れて支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今必要としている事、認知の現状を踏まえ脳トレ、散歩などを取り入れ支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在の状況、変化を理解し家族、全職員にモニタリングをして課題の抽出する事により介護計画に反映している。	日頃から聞き取った利用者や家族の意向に加え、介護計画見直し時には改めて両者の意見を確認している。職員によるカンファレンスの意見も反映して、現状に即した計画立案に努めている。	身体介護に関する計画は十分にできている。目標を具体的内容に絞り込み、利用者、家族、職員と関係者が達成感を感じられる介護計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子等をケア記録に記載し朝の申し送りに於いて参考にし周知徹底を図っている。また利用者ノートで情報収集を心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や美容院などは職員が同行し一人ひとりに合った支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域からの親子の訪問。利用者側としては町内の訪問、花火大会、盆踊り、清掃活動等に参加し楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診療。24時間電話での対応、緊急時には先生の往診が出来る体制を構築している。また歯科に於いては定期的往診が出来る体制でもある。	看護職員が日常の健康管理を行い、24時間対応可能なホーム協力医が月1回往診している。内科の他、皮膚科、外科、歯科の往診も受けられる。その他の専門科受診は家族対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員による健康管理、医療的処置などの相談と助言を受け個々の対応に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院をめざし医療相談員と話し合いにより情報提供を受け、ホーム看護師と打ち合わせを実施し早期退院が出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医、ホーム看護師、職員の意見等を参考にホームで出来る事を優先し、家族に説明し共有する。	入居時に、医療行為が発生しない限りはホームで最期まで対応するとの方針を伝えている。その後の方針を決めることが必要な時期には、家族だけではなく、必要に応じて協力医も交えて話し合い、利用者にとって最善な方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急法講習会を受講している。突発的な事故などに備え消防署救急救命士による訓練を年2回行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	〇の付く日に避難訓練を実施している。想定は日によって火災、地震、夜間を想定している。地域の於いては訓練をする事により情報提供となっている。また市の消防課主催の訓練講習にも参加している。	年2回、消防も交えた避難訓練に加え、月3回職員が鳴り物を鳴らし、音を聞いた外への避難を習慣化するホーム独自の訓練を行っている。十分な米の備蓄と法人代表宅には井戸があり、大きな支えとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は人生の先輩であり、職員にとっては父母あり、祖父祖母に等しい個々に合った声掛け等を実施対応している。	職員は利用者との距離感に気配りし、否定せず、言葉の表現方法や言葉遣いに配慮している。羞恥心こそ尊厳に大きくつながる意識と捉え、羞恥心の減退が起これぬよう日常のケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	当ホームは自立支援の方が多いためか携帯電話を持ち込み家族と会話を楽しんでいる。職員には自分の思いや希望を話す事が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自のペースに合わせて個性を尊重して毎日の生活を支援している。合わせてその日の体調などを考慮して穏やかに過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これについては個人個人の特徴が最大に発揮される。これで良いではなく本人が納得出来るよう、季節に合った服装など声掛けをする。そして喜んでもらえるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	人生の最大の”食べる”である。利用者とホームの畑で収穫を楽しみその収穫された野菜などを職員と共々献立を考え、調理し食卓をにぎわしている。	冷蔵庫にある食材と畑で収穫した野菜で、利用者の希望を聞いてその日のメニューを決めている。季節の行事食や時には出前寿司の提供もある。利用者は配膳、食器洗い、食器拭きと、可能な事を一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食のカロリー表を基に栄養バランスを確保し、常時、水分補給が出来るように居間にお茶を用意してある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が付いて見守り上手く出来ない利用者には支援している。 また定期的に歯科受診を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛け誘導見守り、排泄の様子を特に注意して自立排せつが出来るよう支援している。	見守りや声かけ、誘導と、一人ひとりに合わせた支援で自立度維持に努めている。排便コントロールが難しい利用者は、カレンダー式の表にして事務所内に貼りだし、職員全員で意識統一してケアにあたっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多いもの、ヨーグルト等三度の食事やおやつの際に提供を心掛けている。便秘の予防に体操や水分補給に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調に合わせて入浴を心掛けている。入浴前にバイタルを実施。また入浴剤や保湿剤を使用して気分よく入浴出来る様に、石鹸は弱酸性のものを使用。	毎日風呂を立て、利用者は2日に1回午後の時間帯に入浴している。希望に沿って同性介助にも配慮し、利用者が日頃の思いを語りたくなるように、ゆったりと楽しく過ごせる時間の提供に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日おきのシーツ交換により清潔な環境にしている。就寝後の巡回は常に室温チェックを行い安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「主治医と連携し変化があれば連絡し指示を仰ぐ」を職員全員が周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で調理補助、清掃、洗濯などの補助作業を取り入れ楽しんで頂き支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員での外出。個人の外出を支援している。外出した際には本人の希望を出来るだけ叶えてやり店々をショツプしている。また家族が来所の時は外出できるよう声掛けを実施している。	気候の良い時は日常的に散歩に出かけ、通年で週2回個別外出支援を行っている。花見や映画鑑賞、イルミネーション見学等の企画外出も毎月行われている。家族は協力的で、家族支援による外出機会も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際はお小遣いを所持して好みの品を自分で選び支払いをしてもらうよう支援し見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室での携帯の持ち込み。日々の手紙のやり取り特に年賀、暑中見舞い等が出来るよう声掛け支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の書いた作品や写真を掲示している。日々の暮らしの中で作品等を眺めながら和んだ会話が出来、楽しむことが出来るよう心掛けている。	明るいきりびんの壁には利用者の作品や楽し気な行事の写真が飾られ、利用者と家族、職員との話題のネタになっている。庭の畑では季節の野菜が育てられ、玄関横には花壇がある。いずれもが、利用者の植え付けや水やりの活躍の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部は勿論屋外にはベンチを用意して日光浴を、四季折々には花々を楽しんでもらっている。 特に秋にはみかん狩り?を楽しみ食している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の部屋。出来るだけ使い慣れた家具などを用意して安心して暮らせるように工夫している。	和室と洋室があり、各居室には洗面台が設置されている。テーブルやたんす等、馴染みの品々が持ち込まれ、自室で携帯電話で家族に電話をしたり、趣味の作品を飾ったりと、落ち着いて過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには非常用ブザーを廊下には手すりを設けて、安心安全に自立できるように工夫している。		